

## A はじめに (りょうすけのひとりごと)

えく!? またかあ……。今回は頑張ったのになあ……。

「佐藤さんの前期の評価はBです。プラス評価になる加点ポイントが足りなかったよな」

俺の名前は、佐藤りょうすけ。

今日の評価面談では、またもや「目標に対して見込み通りの成果に与えられる」B評価だった。

そのフィードバック面談での上司のコメントも前回と一緒。「良くも悪くもインパクトがなかったよな。お前ならもっとやれるはずだ! もっと大きな目標を目指してほしいんだ」というお決まりの文句。もっ、正直聞き飽きたよ……。あれだけやってもこの評価なのか? どうすれば、高評価をもらえるんだろう??

新卒でこの会社に入ってから、あつという間に10年が過ぎた。



最初の3年間は新人扱い、それからの3年間は中堅と呼ばれ、最近ではベテラン組に入っている。いわゆる、課長予備軍の一員。

同期入社の中からは、少しずつ課長を任されるやつも出てきて、実は焦りを感じているんだよね……。でもその反面、この会社で目指すべき理想の上司像が見当たらないし……自分はこの先、この会社でどうしたらいいんだろう？ 何をやったらいいんだろう？ その答えがまったく見えていないんだ。

料理を作るのが好きだから、いつそのこと趣味のワインソムリエの資格を生かして、カフェバーでも開いたら楽しいんじゃないか？ 家族が飯を食えるぐらい稼げるんじゃないか？ とちよつと考えているんだけどね。

実は、1年前に「男も通える料理教室」にひそかに通って、カフェめしのレシピを仕入れたり、「カフェをはじめた人の本」をいくつか読んで、開業を考えてみたんだ。

ただそれを妻に話してみると、即刻NG！「会社辞めたら即、離婚するから（怒）！ 私たちを路頭に迷わす気!？」とまだ乳飲み子である下の子を抱きながら言われたら、従うしかないよね……。

そんな夢も希望も見失い悶々とした日々の中、目に入ってきたのが「朝活テーマ…何のために君は働くのか？」というタイトルで送られてきた社内メールだった。

送り主は、新卒入社したときから公私ともに付き合いがあり、『けんにい』と呼んでいる先輩社員だった。けんにいとは業務で一度同じチームになり、彼の下で半年間ぐらい一緒に仕事したこともある。そのときから気が合つて、その後もプライベートでときどき飲みに行く仲になった。そのけんにいが主催する朝活つて？ どんなものなんだろう……。自分が変わるきっかけになればいいなと思うし、あのけんにいがこんなことを開催するようになったとは、以前のけんにいを思うと、かなり意外で気になるし……。ちよつと出てみようかなあ……。

そんな矢先だった。別部門への「異動」の内示を受けたのは……。ついにお払い箱か……。

せつかくけんにいの朝活に出ようと思つたのに、本社ビルから離れたオフィスになると、始業開始時刻の関係で朝活には出られない……。どうしよう!?

実は、これつていつものパターンなんだよね。

俺が自分から何かを始めようとすると、必ずなんらかの邪魔が入つてしまい、結局は断念してしまつているんだ。それをけんにいにメールで相談してみたら、けんにいからこんな提案があつた。

「朝活で実施したその日のワークの内容を、りょうすけには個別にメールで送ろうか？ 毎回のテーマに沿つた内容を、りょうすけにも読んで考えてもらいたいから……。」ということだった。朝活のワークの内容がけんにいからメールで送られてくるから、そのメールでの投げかけに答えていくということ

らしい。朝活自体の開催予定は、全部で15回ぐらいとのこと。一度は参加を諦めかけた朝活だったけど、メールをもらって、それに答えていくぐらいならいいかなと思った。

それに何より惹かれたのは、その朝活のテーマそのものだった。『社会人10年やっても「分らないことだらけ」の君へ』それって、まさに俺のこと!?! せっかくのお誘いだし受けるしかないよね。

そんなことで、けんにかからのメッセージを受け取ることになったのだった。最初は軽い気持ちから受けたものだったが、これが結構考えさせられるものになるとは、そのときは微塵も思っていなかった……。

これからはじまる内容は、けんにかから親愛なる後輩のりょうすけに向けて送られた、メールの内容です。

毎回テーマごとに質問を投げかけられ、それに答えていく形式です。

君もぜひりょうすけの身になって、問いに答えてみてください。君の今後の生き方の方向性を決めることに、少しでも役に立つことができたなら、とてもうれしいです。